



大崎小学校の校章は「梅」

大崎小の学区内にある「硯井の井戸」「硯井天満宮」にその理由が
硯井の井戸について



901年（平安時代）に左遷された菅原道真が大宰府に赴く際、飲み水を求めて大崎に立ち寄ったおりに見つけた湧水だという。当時、一帯は海だったが、井戸のあたりだけ干上がっていて、真水の清水が湧いていたのだ。湧水を見つけた菅公の神通力が伝説をつくっているのだろう。

菅原道真はその真水を汲んで、その水で墨をすり、「海ならず たたえる水の底までも 清き心を月ぞ照らさん」と歌を一首詠んだ所といわれている。井戸は現在も硯井の井戸（写真上）として残っている。現在も井戸には水が湧いており、地元の方により美しく保たれている。

硯井天満宮について



菅原道真が筑紫へ左遷されたとき、途中、ここ大崎付近で船から降りて丘にあがり、真水を汲んで、その水で墨をすり、歌を一首詠んだ所といわれ、その跡に創建されたのが硯井天満宮（写真下）とされている。

学問の神、菅原道真公を祀る硯井天満宮を中心に遊園地、グラウンド、梅林等がある。

菅原道真といえば太宰府、太宰府といえば飛び梅伝説。学問の神様・菅原道真を祀る全国の神社は、神紋に梅を用い、境内に梅を植えています。菅原道真が立ち寄ったここ大崎にある大崎小学校の校章が「梅」となったのはこのような歴史からです。

・少年時代から梅が大好きだった菅原道真は京都を発つ時、「東風（こち）吹かば匂ひおこせよ梅の花 主なしとて春を忘るな」と歌を詠みました。

大崎小の校歌1番にも「学びの神の 硯井や」とあります。また、令和3年度の開校50周年を記念し、新たに3本の梅の苗木を植えましたので、現在、校内には21本の梅の木があり、毎年6月には、6年生と地域の人がいっしょに「梅の実の収穫」をしています。



梅の実をとる6年生



収穫した梅の実の選別



地域の梅ガールと梅ジャムづくり